

1 事例に関するその他の資料

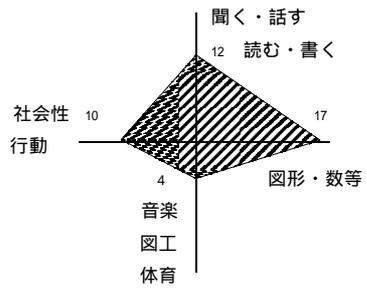
事例 1 尋ねていないことまで一方的に喋るA男(1年生)	
生育歴	<p>吸引分娩 始歩 = 9か月 始語 = 1歳10か月(語彙は2歳9か月でも10語未満で家族がなんとか理解できる程度であった。) 3歳～ 急に語彙増加、保育園通園、ことばの教室にも来室その頃 熱性けいれん2回 6歳～ 療育教室に通う。</p>
諸検査の結果とその解釈	<p>(1) WISC-R検査 全検査IQ=100 言語性IQ=109 動作性IQ=88 有意差あり21(>15) 非言語性LDの可能性はあるが、下位検査の群得点は、言語操作力(VO)と空間操作力(SO)の差が3より小さいので厳密には該当しない。 言語性下位検査のうち「理解」での落ち込みが、言語表現における要点の脱落と、社会的常識や人間関係の結び方の弱さの背景にある。 「算数」「数唱」の強さから聴覚的な記憶と反応の良さがうかがえる。 低い動作性下位検査のうち、「積木模様」が高いのは、視覚で捉えた模様を分析し総合的にまとめて認識する力が強いと考えられる。 「絵画完成」「迷路」の低さは、不安傾向の強さを表す。</p> <p>(2) K-ABC心理教育アセスメントバッテリー 同時処理尺度・継次処理尺度・認知処理過程尺度・習得度尺度 = 105～117で各尺度間に有意差なし。 下位検査「手の動作」「位置探し」の低さから、視覚による短期記憶や注意集中の弱さがうかがえる。そのため、聴覚使用を中心としたWISC-Rの「算数」に比べて、視覚と聴覚を両方使用するK-ABCの「算数」が低くなったと考えられる。 また、「位置探し」の低さは、提示物の名称を逐一唱えながら(得意な言語を使用して)記憶しようとしたが、提示物の数が増加するとともに時間制限のため失敗が増えたからである。 「模様の構成」が高く、分析能力は比較的優れており、WISC-Rの「積木模様」の高さと一致する。 言語面では、「ことばの読み」が高く、文字はよく理解しているが、「なぞなぞ」が低いことから、難しい言葉は知っていてもその正しい概念の形成までできていないと考えられる。</p>

事例 2 非難・叱責に幼稚な攻撃的反応を示すB男(2年生)	
生育歴	<p>満期出産で普通分娩 始歩など運動機能発達は平均水準 始語不明 家族構成</p> <pre> 父 ———— 母 兄 ———— 本児 ———— 妹 </pre> <p>人見知りはありません。親としては、生育歴上問題となることはあまり感じていない。ただ「ごっこ遊び」はあまりしなかった。 母親と祖父母の不協和な関係にも抑鬱感を抱いている。</p>
諸検査の結果とその解釈	<p>全般的な知的発達は、境界線。 偏りに有意差がなく、明確なLDタイプの特定はできないが、言語面・情緒面での課題が大きい。</p> <p>(1) 新版K式発達検査 認知・適応領域が優位(言語・社会領域より発達指数が21大きい) 中でも「積み木たたき」が他と比べ著しく高い。</p> <p>(2) WISC-R検査 動作性IQ優位だが有意差なし。 下位検査間に大きなバラツキがある。 著しく低いのは、言語性下位検査の「理解」「数唱」「知識」、動作性下位検査の「絵画完成」で、逆に高いのは、言語性では「算数」、動作性では「積み木模様」「迷路」「組合せ」である。</p> <p>(3) P-Fスタディ 社会性に未熟さがあり、場面理解・状況判断がしにくいことから、他者から非難・叱責に対する幼稚な攻撃的傾向が生じてきている。 家族関係に抑鬱感を抱き、内面での葛藤が投影されている。</p>

事例 3 友達の嫌がることをして気を引くC男(3年生)	
生育歴	<p>1歳 おしめが換えにくいなど、多動で落ち着きがなかった。</p> <p>1～2歳 母親が弟妊娠中、予定日より2か月早く入院したり(本児1歳9か月)、家族の入院(第1回、父2回)が続き、母親の本児への関わりが十分ではなかった。</p> <p>4歳 舌の出し方が今一歩未熟。知的発達に遅れはないが、保育園で集団に入りにくいなど社会性が少し気になる。(保健センター「育児相談」での指摘)</p>
諸検査の結果とその解釈	<p>言語性LDの可能性もある。加えて、注意集中の困難や社会性の未熟さもある。</p> <p>(1) WISC-R検査(3学年5月実施) 全検査IQ 72 言語性IQ = 87 動作性IQ = 110 有意差あり23(>15) 言語操作力 = 8.7 空間操作力 = 13 有意差あり4.3(>3) 注意・記憶力(=7)が言語操作力と空間操作力の平均(=10.9)より小さい。(有意差あり3.9(>2))</p> <p>(2) 京都府総合教育センターの平成8年度「通常の学級において学習に困難を示す児童の実態調査」の項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 「聞く・話す・読む・書く」領域で困難な項目 = 13項目 「図形・数・日常生活での数に関する力等」領域 = 11項目 「音楽・図工・体育」領域 = 2項目 「社会性・行動」領域 = 7項目 <p>なお、領域横断的な偏り分析では、「情緒面」が10項目中7項目ある。</p>

事例 4 会話や行動が場の雰囲気にな合わないD男(4年生)	
生育歴	<p>正常分娩</p> <p>始歩 = 1歳3か月頃</p> <p>始語 = 2歳6か月頃 保育園(集団)に早期に入園させるよう言われる(保健所)が、入園せず。</p> <p>5歳 会話が長く続かない。友達ができない。ごっこ遊び(役割分担)ができない。</p> <p>6歳 保育園では一人遊びが多い。他児と共に遊べない。</p> <p>多動。園外保育ではぐれることがある。着替えを嫌がる。</p> <p>指先不器用。お箸が使えない。偏食もある。</p> <p>難しい言葉を使うが、その意味を理解していないので、つじつまが合わない。助詞脱落も多い。</p> <p>善悪の判断がつきにくく、他児へのちょっかいも多い。</p>
諸検査の結果とその解釈	<p>包括性LDと考えられる。併せて、運動のぎこちなさ、手先の不器用さ、社会的スキル(対人関係、状況認知)、注意の集中にも課題がある。</p> <p>(1) 新版K式発達検査(3学年11月実施 生活年齢9歳6か月) 認知・適応領域 = 10歳5か月(発達指数112) 言語・社会領域 = 8歳3か月(発達指数88)</p> <p>(2) ITPA言語学習能力診断検査(3学年9月) プロフィールに聴覚・音声回路の落ち込みが見られ言語操作・知識習得に支障をきたしていると考えられる。</p> <p>(3) WISC-R検査(4学年8月実施) 全IQ = 81 言語性IQ = 77 動作性IQ = 88</p> <p>(4) 絵画語彙検査(4学年8月) 語彙年齢 = 9歳4か月 評価点 = 9(中)</p>

事例 5 家庭でしか話さない〔場面緘黙〕E女(4年生)	
生 育 歴	<p>家族構成</p> <pre> 父 ----- 母 ----- 本児 弟(小2) </pre> <p>妊娠中、切迫早産で母親1週間入院 育児は、出産直後から両親(特に支配的な舅)との軋轢のため、心理的に不安定な状態であった。 1歳2か月 這い這いでできないため、病院でリハビリテーションを受ける。 (母「初めて母親として関われた」) 3歳 保育園入園 泣くことが多く、表現力が弱い。 1～2学年 体育授業の際、付きっきりの指導が必要なほどではなかった。 2年～ 口数減る。(母「友達との関係が原因」) 3学年～ 場面緘黙 3学年9月～ 通級による指導開始 3学年12月～ スクールカウンセラーによる母親のカウンセリング開始。母に抑鬱状態あり。</p>
諸 検 査 の 結 果 と そ の 解 釈	<p>母子の情緒の絆が弱く、社会性の広がりが見られない。運動技能の遅れもある。 場面緘黙</p> <p>(1) 乳幼児精神発達質問紙検査 6歳を少し上回る。 運動技能面に遅れがある。</p> <p>(2) WISC-R検査 知的発達の遅れなし。学習能力は高い。</p> <p>(3) カウンセリング、通級による指導での観察 母子関係において、十分な情緒的絆が結べていない。 文具、おもちゃなどの物や、かかわりのある人間への愛着パターンが不安定である。</p>

事例 6 前の時間に習ったことをほとんど忘れるF女(5年生)	
生 育 歴	<p>妊娠8か月 羊水過多症診断 早期破水による早産 吸引分娩 保育器に1週間 つかまり立ち 1歳 始歩 1歳3か月 保育園入園 3歳 言語理解は平均発達であったが、一人遊びが多く、友達は少なかった。 肥満傾向 入学時 体重38.5kg 10歳4か月現在71.7kg 授業中、教師の話を聞かず窓の外をじっと見ていたり、手遊びしていることが多い。 忘れ物が多く、整理整頓も苦手である。 家族での外出に、他の兄弟は同行させても、本児は留守番させることなどが多く、両親の養育姿勢に問題が うかがえる。</p>
諸 検 査 の 結 果 と そ の 解 釈	<p>言語性LDと注意・記憶性LDの可能性がある。 当センターの平成8年度「通常の学級において学習に困難を示す 児童の実態調査」の項目</p> <p>「聞く・話す・読む・書く」領域で困難な項目 = 12項目 「図形・数・日常生活での数に関する力等」領域で 困難な項目 = 17項目 「音楽・図工・体育」領域 = 4項目 「社会性・行動」領域 = 10項目</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>聞く・話す 12 読む・書く</p> <p>社会性 10 17 図形・数等</p> <p>行動 4 音楽 図工 体育</p> </div> </div>

事例 7 聴覚障害〔中等度難聴〕があるG男(6年生)

生育歴

0歳10か月 伝音性中等度難聴の診断 補聴器装用
 1歳8か月 始語
 2歳10か月 会話 2から3語文
 3歳2か月 保育所入所 語彙は少ないが、保育の援助なく集団遊びができることもあった。
 6歳4か月 小学校入学 2学年から障害児学級入級を勧めるが、保護者が拒否的なため経過を見る。
 4学年3学期から通級による指導(週1回)

諸検査の結果とその解釈

包括性のLDと考えられ、全般的な知的障害もある可能性がある。
 (1) 当センターの平成8年度「通常の学級において学習に困難を示す児童の実態調査」の項目
 「聞く・話す・読む・書く」領域で困難な項目 = 16項目
 「図形・数・日常生活での数に関する力等」領域で困難な項目 = 14項目
 「音楽・図工・体育」領域 = 5項目
 「社会性・行動」領域 = 13項目

(2) WISC-R検査
 全IQは平均を下回る。言語性IQ > 動作性IQ(ディスレパシー14)
 言語操作力、空間操作力ともに低い。
 言語性下位検査にバラツキがある。
 視覚については乱視、遠視があり、記憶は聴覚性記憶優位と考えられる。
 数字などの短期記憶はよいが、長期記憶は弱いと思われる。

